

## 今後の防除及び管理について

福光フルーツ生産者協会  
福光農業協同組合  
富山県砺波農林振興センター

### 1 概況

果樹研究センターでの「ふじ」の果実肥大は7月28日時点（満開後95日）で横径62.8mm（前年比90、平年比94）となっています。

病虫害では、一部、ハダニ類や褐斑病が発生しています。また、カメムシ類の果実への吸汁被害が懸念されますので、園地を観察し、十分注意してください。

### 2 防除について（ふじ基準）

薬剤の到達性を良好にするため、果実の重みで枝が下がり、枝同士が重なっている場所などは支柱入れや枝吊りを行ってください。

薬剤は散布ムラの無いよう、ていねいに十分量を散布（※）してください。

※：農薬散布時は周囲の他作物や住宅等への飛散防止に努めてください。特に通学路に面した園地では、登下校時の時間帯等、十分注意してください。

| 散布時期   | 対象病虫害               | 散布薬剤      | 使用時期   | 使用倍率   | 100㎡当たり薬量 |
|--------|---------------------|-----------|--------|--------|-----------|
| 8月6日頃  | 褐斑病、すす点病、すす斑病       | トップジンM水和剤 | 収穫前日まで | 1,500倍 | 66g       |
| 8月21日頃 | 褐斑病、斑点落葉病、炭そ病、輪紋病   | ダイパワー水和剤  | 収穫前日まで | 1,000倍 | 100g      |
|        | シクムシ類、キモホガ、ヨモギエダシヤク | ノーモルト乳剤   | 収穫前日まで | 2,000倍 | 50mL      |

※ 梅雨明け後の高温乾燥時はハダニ類が急増しやすいので、園地を観察し、十分に注意する。ナミハダニ・リンゴハダニの発生が見られる場合は、マイトコーネフロアブル（1,000倍、収穫前日まで、年1回）を散布する。

※ 展着剤を加用すること（マイリノーの場合 10,000倍（10mL/100リットル））。

### 3 土壌水分管理について

降水量が極端に少ない状態が続く場合、果実肥大促進や、日焼け果発生防止のため、以下に留意してかん水を行ってください。

- ・かん水は、5～7日間隔で1回当たり降水量換算20mm程度を目標として行う。
- ・日中の高温時は、かん水を行わない。
- ・苗木や幼木は、優先的にかん水を行う。
- ・かん水後、園地に水が長時間停滞すると湿害のおそれがあるので、排水路の点検と手直しなどを行う。

#### 4 支柱入れについて

8月以降は台風が発生しやすい時期となり、風害による主枝や亜主枝の折損被害も多くなることから、今のうちに支柱入れを行い、被害を防ぎましょう。

##### (1) 支柱の種類

骨格枝（主枝・亜主枝）の支柱は、一般的に用いられている黒イボ竹では強度が足りないため、スギやヒノキの丸太（最も細い部分で直径5cm以上あるもの）を使用する（写真1）。

##### (2) 支柱を入れる位置

- ・支柱を入れる位置は、骨格枝の先端から1/3～1/4程度の位置を目安とする（写真2）。
- ・支柱の位置を決める際には、防除機(SS)等の走路を確保する。

##### (3) 支柱の入れ方

- ・支柱は骨格枝下面の平らな部分にしっかりと当て、骨格枝の下面と支柱の角度が90度となるよう調整する（写真3）。
- ・強風にあおられても支柱が外れないよう、支柱と骨格枝をロープやハウスバンド等でしっかりと結束する。
- ・支柱下側のズレを防止するため、支柱を立てる位置の地面を5～10cm程度掘り、支柱下部を埋設する（写真4）。



写真1 スギ丸太支柱



写真2 支柱位置の目安



写真3 支柱の角度および骨格枝との結束



写真4 支柱下部のズレ防止

- 農作業に当たっては、こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。
- 脚立での作業や、農業機械での作業時等の作業安全対策を徹底し、農作業事故発生防止に十分努めてください。